

原爆死没者慰霊碑 劣化が進行

建立から44年 修復に100万円以上

浦上駅構内の国鉄原爆死没者慰霊碑は、間もなく建立から44年が経過する。長年の風雨にさらされ随所に経年による劣化の進行が確認されている。

特に、象徴的なデザインの三角柱の上部に亀裂が生じ、球体部分では中の鉄筋が表面に浮き、さらに床面の土台の剥がれなど傷みが激しい。また緑化部分の整地や毎年執り行われる慰霊式のスペースの見直しなども課題となる。

長崎地区本部では被爆者対策協議会（被対協）として、複数社から修復するための見積もりを取り国労本部へ送付している。今年の全国大会で提起される見通し。



【三角柱の亀裂の箇所を説明する豊田地区本部委員長。緑化されている部分の草むしりや整地も JR 組合員と退職者で交互に行われている。高年齢化により今後の定期的な清掃・維持活動が課題。】

慰霊碑建立の経緯 国労被対協の幹事会で発議

慰霊碑の建立は、原爆投下から25年が経った1970年の4月14日、国労被対協の幹事会で画期的な提議となる慰霊碑建設を発議し、その後幹事会や建設委員会の協議を経て3年後の1973年7月30日に竣工した。碑文の作詞や碑のデザインは全国から募集し、資金はカンパにより最終的に約800万円を集約した（「この怒りを」被爆60年特集号・第8集）。

2017年度九州本部大会代議員決まる

長崎地区本部選挙管理委員会は6月8日、2017年度九州本部大会代議員選挙の当選を報告した。当選は、長崎地区本部定数2名につき、島敏文佐世保分会委員長（57才・佐世保運輸センター）と御所義治長崎分会委員長（55才・長崎乗務センター）の二人。



【6月18日の清掃活動、開、豊田、上之濱、川崎、荒木、岩崎、工藤、御所、宅嶋、米満】